

2019年度 園評価		つくし保育園
保育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な子ども ・自分で行動し考えることのできる子ども ・感動する心を持ち、豊かに表現できる子ども ・仲間の中にいることを喜び、仲間を大切にすること 	
○方法・環境 ○社会的責任 ○養護・教育 ○計画・評価 ○小学校との連携接続 ○安全管理 ○災害への備え ○家庭との連携・子育て支援 ○職員の資質向上		
実践・評価・反省		今後の方向
<p>・4歳児で竹のぼりの練習中に転落し、上腕骨顆上骨折となる事故があった。その他、1歳児で肺炎や熱性けいれんで入院した。 ～変更続きの一年～ まず始めに散歩道。全国的に大きな問題となった大津交通事故を受けて、散歩道での‘日々感じている危険な力所’を出し合い、実際に歩いて検証する中で、より安全な散歩道を模索した。目的地によっては、遠回りになり行きづらくなってしまった場所もあるが、子どもの安全を第一に考えると大切な対応だったと思う。先々に子ども達が興味を持てるような物を見つけたり子どもの提案した目的地や道のりを受け入れたりした事が、子どもが‘活動と一緒に作り上げている’という感覚や期待が持て、より主体的に過ごしたり新たな友だち関係を作るきっかけになったりしていた。保育者と手を繋ぎ、一人一人のペースで歩いたことが‘歩く楽しさ’を知る機会になり、後々には友だちとも手を繋ぎ、友だちを受け入れるようになった。</p> <p>そして、荒天・雨天により多くの行事の変更。‘子どもにとって大切にしたい事’は何かを中心に考え、日程を変更したり短縮したりして行ってきた遠足や運動会。運動会ではそれまでの成果を見せる場に期待や緊張をしながら、自分の力を精一杯出し切り、運動会当日に‘楯形山’の跳び付きが初めてで盛大な喝采が起こったり、‘見られている場で、できないかもしれない’と揺れ動く心と向き合う子どもの姿に「この姿も発達なんだなあ～と会場内が温かい雰囲気になったりもした。また、年度末には、全世界的な広まりを見せているコロナウィルスの影響により、予定していた行事の急な変更も相次いだ。しかし、どんな場面・状況でも‘子どもにとって大切な事は何か’を第一に考えてきた。変わると言えば・・・発達年齢に比べると、少しずつ発達が幼くなっているように感じる。身体的な発達年齢だけでなく、子どもの発達全体でも、その年齢で押さえておくべき保育内容・活動は保育者が意識していかないと、気付かないうちに子どもの本当の力を引き出せなくなっているのかもしれない。</p> <p>・子どもにとっては基礎を知っているからこそ物事の面白さをより味わえたり探究し甲斐があったりしたのではないかと反省する。3月に入り、基礎を大切に活動をしているからこそ子ども達も先の見通しや追求する期待感を持ちながら、さらに「うまくなりたい」という向上心がある姿になっている。‘片付け’など環境整備についても保育者が意識して定期的に行ってきたロッカーの片付けなどは子どもも意識するようになった。しかし、声掛けが少なかったトイレの使い方は雑になっていた。 ～相手を丸ごと受け止めるとは～ 4・5歳児を中心に懇談を多く持ち、子どもの困り感・行動の背景にあるモノは何か・その子に合った関わり方など家庭と園での姿を出し合ったり、今その家庭が抱えている課題を知ったりした。じっくり話し合う時間を設けることにより、普段の会話では知り得なかった保護者・子どもの状況を知るきっかけになったように感じる。</p> <p>・あいさつを交わし、大人も笑顔でいること、職員一人ひとりの思いや考えを出し合い、皆で話し合いながら保育を進めていくこと、そのすべての関わりは“子どもの幸せ”へと繋がっていく。よりよい保育、気持ちの良い関わり、職員集団となるよう手を取り合っていきたい。クラス内で毎日保育を振り返り、活動や保育者の意図・子どもの気持ちを話し合い、各々の捉え方を伝え合ったり発達を読み解いたりしてきた。考え方や子どもの姿を共有することができ、また、悩みをみんなで話し合う事で、‘一人じゃない。みんなで保育している’という心強さを感じた。疑問に思った事はその都度聞いていいんだとも思えたなど話した。1月から働き始めた調理員から「8割おいしいければいい」という言葉を聞いて、いつも同じじゃなくていい。時には失敗する事もある。自分は完璧じゃなくていいし、一人で全てをやらなくていい、職員集団は、色々な職員がいて、自分の思いを伝え合いながらそれぞれが良さをもち寄り寄り折り合いを付けてたりしている。子どもを中心に考えて保育していく事が大切であると確認した。</p> <p>・今年度の苦情は、事故(ケガ)が起きた時の対応、保育者の関わりについての2件だった。保護者の意見・思いを聞き、園として話し合い、真摯に対応することで理解してもらうことができた。その一方で、保護者の就労の大変さもあるが、子どもとの関わり方が分からない、休日が恐ろしい、兄弟(姉妹)を見ることできない等声が多く聞かれ子どもと過ごすことが苦痛と感じ、“子どものために”“子どもと一緒に”生活する喜びを感じられない、『自分(母)の話聞いてほしい』親が増えてきている中、家庭の多様な問題に園としてどこまで支援ができるのか考えさせられる一年だった。</p> <p>・今年度は、大津の事故を受けてお散歩コースの変更を行ってきた。保育活動の中でも園外へ出かけることの多い自園では、コースの変更をすることで遠回りになることもあり子どもの体力を考えると心配もされたが、安心・安全“いのち”を守ることを考えるとやむを得ず、また最善の変更だった。</p> <p>・年度末には、報道されているコロナウィルスへの対応について、政府、県や市の通達により各イベントの中止、小中高の行事の見直し、県内の公園、公共施設等の利用に制限ができ、お別れ遠足の中止や保護者清掃の変更等を余儀なくされた。幸い県内にはまだ出ていないようだが、今後の動向をみながら対応していく。また手洗いをしながら感染予防をしていく。</p> <p>・新園舎建設では、職員一丸となって“さよなら会”の開催を行ってきた。250名の卒園児・退職職員・在園児・地域の方の参加があり、改めて「また戻ってきたい」と思える熱い保育が営まれてきたことを感じた。新園舎になってこう思える保育を継続できるように話し合いを重ねていきたい。また、様々な場所で寄付金をお願いをさせてもらい温かい言葉・気持ちも頂いた。現在、目標額の4分の1の寄付金が集まっている。今後、どのように集めていくのか、職員間で知恵を出し合っていきたい。</p>		<p>・肋木に竹を縛る方法を再度職員で確認し合い、縛った後に竹が揺らいでいないかの安全確認を必ずしていく</p> <p>・今後も今まで予想もしていなかったような状況が出てくると思うが、‘子どもの安全・安心・健康’と‘子どもがより楽しめるように’を大切に対応していく</p> <p>・各年齢で押さえておくべき保育内容・活動を学び直したり意識して保育しておく</p> <p>・何気ない会話を大事にしながら、信頼関係づくりに努めていく。</p> <p>・苦情に対しては受け止めて、真摯に対応していく。</p> <p>・保護者支援は、まず親の思いを傾聴することを大切にする。</p> <p>・園周辺、散歩コース等、危険だなと思ったところを周知し合いながら、安全確保を行っていく。</p> <p>・今後の動向をみながら、園として出来る対策・対応をしていく。</p> <p>・来年度も引き続き、家庭と園で子どもの姿が共有できるように家庭と園での姿の相違を一致させ、子どもの困り感を探ったり次に進む手立てを話し合ったりしていく</p> <p>・地域に根ざし、園として出来ることを考えつつ、知恵を出し合いながら財政活動も行っていく。また、新園舎の完成、引っ越しに向けても職員が一丸となっていく。</p> <p>・来年度8月から新園舎に引っ越すことで、1・2階に部屋が分かれる為、職員ひとり一人で伝え合う事・相談する事・確認する事を今以上に大切にして、よりよい保育ができるようにしていく。</p>